



もっと素晴らしい明日へ。

医療法人協和会

協立病院
Kyoritsu Hospital

中核病院に求められるものが 変わりました。

「**私たちは、地域の、医療の、最後の砦です。**

私たち協立病院は、この地に誕生したときから、救急医療、急性期医療を自らの領域としてきました。その思いは、「私たちこそが、地域の、医療の、最後の砦」。医師・看護婦・検査技師をはじめ、あらゆるスタッフが、大学病院レベルをひとつの基準に、それぞれの専門能力を高めつつ、24時間、力を合わせてこの砦を守ってきました。そこには、姿や形にとらわれず、実質的な機能性を最優先させてきた歩みがあります。そして気がつくと、20年過ぎた今、私たちは地域から「中核病院」と認識、評価されるようになっていきます。

その認識と評価を、私たち自身、医療人としての自負心を持って、実感することができるはず。いつのときも、この地域の医療の最前線に立ち、人々の生命を守って来たのは、私たちであると。もちろんこれからも、私たちはその役割を果たしていく意志があるし、努力をしています。

「**自院、そして地域医療全体の見直しが必要です。**

意志を持ち、努力の覚悟も出来ているからこそ、今、私たちは、中核病院としての有りようを、見直す必要があります。というのも、今日の中核病院には、自らが地域で最高の医療を提供することはもちろん、地域の医療機関(診療所、慢性期病院等)との連携により、地域の人々に連続した医療を提供する流れを創る、つまり地域医療全体の枠組みを形成し、その中核的機能を果たすことも求められているのです。そのためには、一方では自院の医療体制の見直し、そして同時に地域の医療機関との関係づくり等、多角的視野を持つことが必要といえます。

私たち協立病院が提供する医療は、救急、急性期の領域にあります。今よりもなお高次元の医療を展開するために、院内、そして地域医療全体に新たな目を向ける必要があります。

皆さんと見つめたい未来があります。



日本の医療の枠組みを変える。そんな大きな変革が、今、医療界で行われています。そのなかで、私たち協立病院は、めざす医療を実現するために、整えなければならない環境があります。

もちろんそれにはビジョンと計画、そして実践方法など、いくつかのステップを踏まなくてはなりません。

そのとき大切なのは、私も含めた全職員の共通認識。協立病院はどこへ進むのか、より高い成果をもたらす方法は何か、個々の部署でどのような努力をすればよいのか。みんなが同じ認識を持ち、同じ方向をめざして力を合わせる必要があるのです。

私は、「川西地区の医療は、すべて協立病院で解決できる」、そんな理想を抱いています。皆さん一人ひとりに、医療人としての理想を抱いていることでしょう。個々の理想を、ひとつでもたくさんこの協立病院で実現するために、協立病院がこれから描こうとしている環境づくりへの、皆さんの理解とたゆまぬ努力を心から願っています。

院長 上田邦彦

私たちに必要な 「3つの自覚」です。



地域における最先端医療の担い手を自覚し、 そのために必要な環境を整えていきます。

私たちがめざす医療を実現するには、それにふさわしい環境が必要です。そのためにも、医療の器の再検証が必要であり、私としては、まだまだ足りないと思っています。効率的な経営にみんなで努め、最先端医療の担い手に必要な設備、施設への投資は、出来る限り積極的に行っていきたいと思います。私たちにとって充実した環境は、地域にとって重要な「医療の器」です。

医療の器を最大限有効に活用できる人材、 また院内の体制を常に活性化していきます。

どれだけ素晴らしい環境でも、それを生かせる能力がなければ意味はありません。それは人であり、システムです。皆さんには、それぞれの職種での専門性追求はもちろんですが、もう少し広い視野で、病院全体を見つめてください。例えば、情報の共有は？ マニュアルの整備は？ あるいはデータベースは？ ひとつずつ、皆さんと一緒に拡充していきたいと思っています。

すべては地域のためにあることを忘れず、 地域にとっての価値を最優先していきます。

さて、環境が整った、それを有効に活用する能力が備わったとしても、もうひとつ、必要なものがあります。公共性です。これからの中核病院は、自院のことだけを考えていては、地域とともに歩めません。まず、診療所や他の病院にとって有為な存在となる、その絆を地域の人々へと広げる。人材や技術、そして設備、施設等、私たちのすべては、地域の価値ある資産として活用しましょう。

治療機能 について

施術機能

地域で発症する、あらゆる疾患に対応できる施術能力、その一つひとつの技術のさらなる高度化をめざします。併せて、施術ごとにクリティカルパスを作成し、高度なレベルでの標準化を図るとともに、インフォームドコンセントを充実。患者さんに、自分の疾患と治療に関する理解と納得を得、そして患者さんと私たちが、互いに協力して治療に臨んでいきたいと考えます。

通院治療

中核病院としての通院治療は、特定の疾患に対する治療と日帰り手術等、高度専門治療の範疇となります。当院においても、将来的にはそうした形をイメージしていますが、そこへのステップとして、当院での治療の前後を担っていただく地域の診療所、病院に対して、当院の治療能力情報を、もっと積極的に発信する必要性を感じています。

入院治療機能

言うまでもありませんが、当院の病床はすべて急性期病床です。その病床での平均在院日数が、今は大きな問題になっています。いかに短縮し、効率よく病床を稼働させるか、各病棟で努力を進めていると思います。もっともっと努力をしてほしいと思います。それが、本当に当院での入院治療を必要とする人々を、症状に合わせた適性な環境で、効率よく受け入れることになり、中核病院の使命を果たすことにも繋がります。

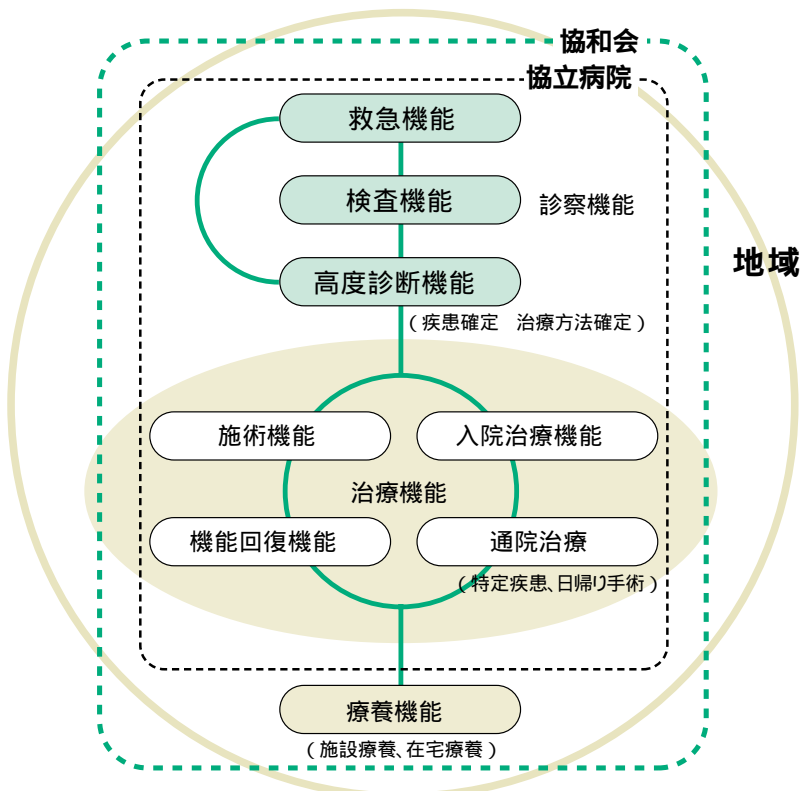
機能回復機能

急性期医療において、医学的リハビリテーションの重要性は言うまでもありません。当院においても今後さらに充実を図り、急性期の初期段階からの治療、訓練を提供するための体制を強化し、患者さんの日常生活、そして社会復帰へのよりスムーズな展開を図りたいと考えます。

療養機能 について

急性期を脱した患者さんには、その後の療養期間が必要です。施設にてという面では、当院ではなく、法人内の施設も含め、療養型病床を有する病院、あるいは介護老人保健施設に担っていただきます。一方、在宅においては、法人として現在すでに訪問看護ステーションを有し、活動を展開しています。施設と在宅、いずれにも医療保険適用と介護保険適用の両方が絡むなか、患者さんにとって最適な環境の確保のために、地域の各施設とのネットワークを、強化していくことが大切と考えます。

協立病院の医療の枠組み



私たちがめざすべき 方向を確認します。

診察機能 について

もはや、一民間病院ではなくなりました。

人々の生命を救う、そして守る。これが私たちの大前提であることは変わりません。しかしその方法は、ただひとつではなく、いくつかあります。これからの中核病院というものを考えたとき、その方法について、今までとは視点を変えることも必要です。例えば、私たちの得意分野はより特化させ、診療圏を越えてでも持てる力を発揮する。反面、不得意分野は、それが得意な医療機関と連携し、地域を越えてでもお任せする。そこには一民間病院という枠からの発想ではなく、公共性 協立病院は公的医療資源であるとの観点から、地域の医療の質、有りようを常に見つめる姿勢があります。

私たち自身の手でこれまで培ってきた資産を、もっと広く、そしてより有効に生かすために、今日までの自分たちに囚われることなく、新しい明日へと目を向けましょう。

初期診断機能

プライマリーケアについては、地域の方々の身近な存在である診療所に、担っていただくものです。そして高度な専門的検査、また治療が必要な患者さんは、当院へご紹介いただく。こうした連携を確実に行うことが、医療の連続性を確保することに繋がります。しかしそのためには、まず私たちは、地域の診療所を知ることが必要です。例えば、各診療所医師の得意分野は何か？ 在宅医療をどこまでフォローしているのか？ つまり、各診療所の医療の中味を正確に知ったうえでの連携こそが、中核病院としての責任です。

高度診断機能


初期診断を経て、診療所の先生から当院へご紹介いただいた患者さんは、その多くが入院治療を必要とします。すなわち、当院での高度診断は、疾患確定そして治療方法確定のためのスクリーニング機能であり、専門医の皆さんの診断能力を、さらに高めていただきたいと思えます。

救急機能

何度も記しますが、川西地区においては、当院こそが救急医療の要です。そのための必要な緊急検査、手術、集中治療までの一貫した体制を整えて来ましたが、今後はそれをさらに強化。24時間、救急医療に関する不応需の砦として、地域の期待と信頼に応えていきます。

検査機能

よりの確な診断、そして治療を行うために、高度な検査能力が必要なことは、言うまでもありません。最新鋭の検査機器を可能な限り導入するとともに、将来的には、それを当院だけではなく、診療所の先生方にもご利用いただき、地域医療全体のレベルアップに貢献していきたいと考えます。



もっと素晴らしい明日へ。

1 地域で最も充実した「医療の器」となります。

地域における最先端医療の担い手を自覚し、
そのために必要な環境を整えていきます。

2 心と技が組み合う「専門の集団」となります。

医療の器を最大限有効に活用できる人材、
また院内の体制を常に活性化していきます。

3 満足と信頼を絆に「公共の機能」となります。

すべては地域のためであることを忘れず、
地域にとっての価値を最優先していきます。

協立病院は、新しい中核病院として、
これからもこの地域の、医療の、最後の砦として、
必要な人々に最適な医療を提供していき続けたいと考えます。
そのためにも、今後、私たちに必要なことを、
新しい理念『もっと素晴らしい明日へ』に託しました。
全職員で心にしっかりと留め、
一つひとつの行動に繋げていきたいと思ひます。